

秘して語ることなかれ —ロスチャイルド家の掟—

(株)日本設備工業新聞社
代表取締役社長 高倉克也

国境を超えて世界に君臨する巨大財閥に成り上がったロスチャイルド家の歴史はゲッターと呼ばれるユダヤ人居住区で始まった。始祖のマイアー・アムシェル・ロートシルト(1744-1812)はドイツ・フランクフルトのゲッターで生まれ育った。ロートシルトを英語で発音するとロスチャイルドとなる。もともとはドイツ語で赤い盾を意味する一族の紋章を家名として名乗るようになった。金融業で成功したマイアーは5人の息子たちをそれぞれヨーロッパの主要都市に送り出す。親子は密接に連携し、ナポレオン戦争の渦中で独自に入手した情報を駆使して莫大な財産を築き上げる。世間に先駆けて掴んだ情報こそ最大の武器だった。ロスチャイルド家の鉄壁の絆はキリスト教社会から排除されたユダヤ人の血の絆を象徴している。いわば一族の存亡を賭けた戦いの代償として巨万の富が生み出された。

宮廷御用商人に抜擢

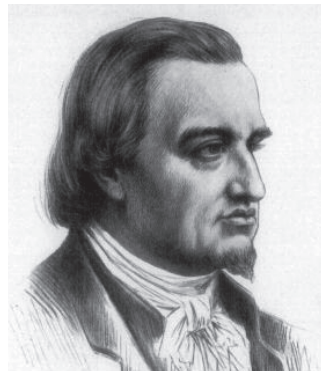
マイアーはキリスト教徒から隔離されたゲッターで貸金業を営む家に生まれた。狭苦しい半月形の居住区は高い壁に囲まれ、夜間とキリスト教の祭日は門が閉ざされ、外出するときは黄色い帽子を被ることを強いられた。職業や結婚も制限され、シェークスピアの『ベニスの商人』で悪役になる高利貸しシャイロックのようにキリスト教徒から蔑まれた仕事にしか就けなかった。幼少の頃からマイアーはユダヤ教の導師ラビを

養成する学校へ通わされた。しかし両親が相次いで亡くなり、中東やヨーロッパの古代史で学んだ知識を活かして希少価値のある古いコインの売買業を始める。小さな店には赤い盾の上に一羽の鷲を描いた表札が掲げられた。

商売熱心で名門の王侯貴族に積極的に近づき、フランクフルト地方の領主であるヘッセン公爵家のヴィルヘルム9世を顧客にすることに成功する。やがて同家の財政面の仕事に携わるようになり、ユダヤ人として最高の荣誉である宮廷御用商人に24歳の若さで抜擢された。

ヴィルヘルム9世はアメリカ独立戦争の鎮圧を目論んだイギリスに傭兵を貸しつけてヨーロッパ随一の資産家となっていった。側近のマイアーは銀行事務弁理人に任命され、文字どおりの金庫番として巨額の資産管理を任された。

私生活では裕福な宮廷御用商人の娘グトレと26歳で結婚し、息子5人・娘5人をもつ大家族の長となる。徹底した男子中心社会のなかでマイアーは早くから息子たちに商売の基本を叩き込んだ。ユダヤ教で男子が成人と見做される13歳の頃には息子たちもすっかり家業に馴染んでいた。



始祖マイアー・アムシェル

戦乱で勝ち残った血の絆

1789年、ルイ16世支配下の絶対王政を打倒したフランス革命の波及を恐れてヨーロッパ諸国の君主たちはフランスに宣戦布告する。ナポレオン・ボナパルトが率いるフランス軍を相手に1792年から1815年までいわゆるナポレオン戦争に突入した。マイアーは反ナポレオン諸侯に巨額の軍資金を融資する。

戦乱によってドイツでは綿製品が不足し、価格の高騰で簡単に手に入らなくなった。イギリスに渡っていたロスチャイルド家・三男のネイサンは産業革命で大量生産されていた綿製品を安く買い取り、ドイツに送って大儲けした。

1806年、フランス軍はドイツに侵攻し、ヴィルヘルム9世が国外へ亡命する。彼の莫大な資産はすべて代理人のマイアーに委託され、巧妙な投資活動によってさらに膨れ上がった。

ナポレオンは同年、大陸封鎖令を発して支配下の国が仇敵イギリスと貿易を行うことを禁止する。ネイサンはイギリスでコーヒー、砂糖、煙草などを安く買い占めて密輸し、一家のネットワーク網を総動員して大陸各国で売り捌いた。

68歳になったマイアーは体調が急速に悪化し、事業から退いて息子たちに委ねた。亡くなる前日、ユダヤ教会で祈りと断食の儀式を済ませ、口述の遺言状を残す。

内容は①家業の重要な地位に一族以外の者を就けてはならない②家業に参画できる者は男子の相続人に限る③結婚は親族内で行う④資産目録を公開してはならない⑤相続した資産価値の公的な評価を行ってはならない⑥一族の当主は過半数の反対がない限り直系・長男系男子を優先する——というものだった。何よりもマイアーは血の絆を最優先し、ユダヤ人に対する迫害を逃れて家族と家業を守り抜くことが永続的な繁栄をもたらすと確信していた。みずからの屈辱の原体験が尋常ならざる排他的な家族主義と秘密主義に帰結したとあっていいだろう。

一族の情報を秘匿して決して語ることなかれというロスチャイルド家の掟はマイアーの死後も5人の息子たちに受け継がれてゆく。

迫害に抗う怒りの子

遺言状に則ってフランクフルトの事業は長男のアムシェルが継承した。二男のザロモンはウィーン、三男のネイサンはロンドン、四男のカールはナポリ、五男のジェームズはパリに拠点を構える。五家は結束して情報網を強化した。緊急時は伝書鳩を活用し、手紙の内容も古代ヘブライ語を交えて秘密が漏れないように腐心した。

5人のなかで行動力に秀でていたネイサンは総司令官、他の兄弟は師団長と呼ばれた。ネイサンの手腕がもっとも劇的に発揮されたのが1815年のワーテルローの戦いだ。当時イギリスは軍資金を公債で賄っていた。イギリス、ドイツ、オランダの連合軍がフランス軍に勝てば公債は高騰し、負ければ逆に暴落することになる。連合軍勝利の情報を誰よりも速く掴んだネイサンはわざと公債を売り飛ばし、他の投資家を誘導して暴落させると今度は買いに転じ、情報を公開して高騰させると一気に売り払って驚異的な利益を独り占めした。彼の大胆不敵な市場操作は「ネイサンの逆売り」として伝説化された。

ナポレオンの敗退後、領地を奪われていた君主や貴族が復活した。ロスチャイルド家はオーストリア帝国の宰相メッテルニヒと関係を深め、1822年に同国のハプスブルク王家から兄弟全員に男爵の称号と紋章が与えられた。新たな紋章には赤い盾と5本の矢が描かれていた。

19世紀に栄華を誇ったロスチャイルド家も20世紀に入ると^{かげ}翳りが見えてくる。第1次世界大戦では敵と味方に引き裂かれ、第2次世界大戦ではユダヤ人絶滅を画策するナチス・ヒトラー政権の標的にされた。世界征服を企む陰謀家集団というプロパガンダ映画が制作され、ユダヤ人陰謀説が世界中に流布された。戦後はロンドン家とパリ家だけが残り、存続が危ぶまれたものの、ふたたび復興してイギリス、フランス、スイスを中心とする金融グループが国際的な影響力を保持している。

血の絆の象徴の赤い盾を意味するロスチャイルドはRoth Childすなわち「怒りの子」とも呼ばれている。迫害の嵐に^{あらが}抗う赤い盾は根源的な怒りに支えられてきたのかもしれない。